



エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは公益財団法人日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料ならびに商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2013.4.20 No.89

「エコマークコミュニケーションフォーラム」を開催しました



「エコマークアワード 2012」受賞者による記念撮影

エコマークアワードのトロフィー



2月6日、消費者、事業者等のステークホルダーが集うコミュニケーションの場として、「エコマークコミュニケーションフォーラム」を開催しました。本イベントでは、「エコマークアワード2012」の表彰式と受賞者によるエコマーク商品等の環境配慮商品普及に向けてのパネルディスカッションを行いました。多くの皆様のご来場、誠にありがとうございました。

目次・CONTENTS

特別報告

- 「エコマークコミュニケーションフォーラム」開催 …… 2

⑧ 認定商品のご紹介

- エコマーク認定のホテルが誕生 …… 4
- 浄化槽のエコマーク認定商品が登場 …… 5

認定基準に関するお知らせ

- 認定基準の制定、改定、基準案の公表 …… 5
- 2013年度以降に取り組む新商品類型の選定結果 …… 6

委員会報告

- 運営委員会、基準審議委員会 …… 6

トピックス

- 2013年度版パンフレット、カタログのご案内 …… 7
- 環境関連イベントへの参加 …… 7
- GEN役員会報告 …… 8
- エコマーク事務局からのお知らせ …… 8

特別報告 「エコマークコミュニケーションフォーラム」開催

「エコマークアワード 2012」表彰式

フォーラムの前半では、「エコマークアワード 2012」の表彰セレモニーを行いました。昨年「エコマークアワード 2011」で金賞を受賞された日本生活協同組合連合会より、金賞受賞後1年間の活動等をご紹介いただいた後、本年度の各賞の表彰が行われました。

今回が3回目となるエコマークアワードは、「エコマーク商品をはじめとする環境配慮型商品の製造・販売あるいは普及啓発を通じた、企業・団体等の優れた取り組みを表彰する」ものです。また、2011年度、2012年度に認定されたエコマーク認定商品のうち、特に環境性能や先進性、エコフレンドリーデザインなどが優れた商品に授与するプロダクト・オブ・ザ・イヤーの表彰も行われました。受賞団体の皆様、おめでとうございます。

各賞の受賞理由は、エコマーク事務局ホームページ (<http://www.ecomark.jp/award/2012/>) をご参照ください。

金 賞	株式会社タカラトミー おもちゃ初のエコマーク認定！ 未来を担う子どもたちへ、おもちゃを通じたエコマーク普及の取り組み 金賞表彰の様子 
銀 賞	エスケー石鹸株式会社 廃食油リサイクル石けんシステムの構築とエコマーク認定商品のリサイクル石けんの普及 タイムズ 24 株式会社 「気づけばエコ」環境に優しい新たな交通手段
銅 賞	コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社 ライフサイクル全体での環境負荷低減活動 カラー複合機 コニカミノルタ bizhub Cシリーズ (bizhub C754, C654, C554 など) 住江織物株式会社 水平リサイクルタイルカーペット ECOS タイルカーペットシリーズの開発と普及 田中建材株式会社 木質加熱アスファルト舗装 (ハーモニーロードウッド)
プロダクト・オブ・ザ・イヤー	HDD 搭載ハイビジョンブルーレイディスクレコーダー (ブルーレイディーガ) DMR-BRT230 他 [エコマーク認定番号：12 149 007 他] パナソニック株式会社 AVC ネットワークス社 

「エコマークアワード 2012」講評 ―選考委員長 平尾雅彦氏（東京大学大学院教授）

エコマーク商品は、認定を取得しているだけでも十分に環境に配慮している商品です。エコマークアワードの選考においては、エコマークをビジネスの中で有効に活用されているか、また、エコマークが目指している持続的な社会、循環型の社会に向けて大きく貢献されているかが、重要なポイントとなっています。さらに、商品を作るだけでなく消費者に気づいてもらうことが重要であり、いかに消費者と社会とをつなげることに尽力されているか、という観点から評価を行いました。

プロダクト・オブ・ザ・イヤーは、2011年度、2012年度にエコマークの認定を取得された商品の中から、特に優れた商品に授与するもので、エコマーク商品を通して私たちが豊かな生活をする、ということに導いている点を評価しました。

今回の受賞を、企業のみなさんと私たち消費者が豊かな社会に向けて一緒に努力するきっかけにしたいと思っています。受賞者の皆様、おめでとうございます。



受賞事例紹介「エコマークアワード 2011 金賞受賞後 1 年を振り返って」

―日本生活協同組合連合会

認定商品数の拡大と商品へのマーク表示など、外部認証の環境ラベルとしてエコマークを活用する取り組み、エコマークアワード金賞受賞後のPR活動ならびに商品を通じた社会貢献などについてご紹介いただきました。

日本生活協同組合連合会
中野尚義氏



受賞団体によるパネルディスカッション

エコマーク等環境配慮商品の普及への取り組み ～エコマークアワード受賞団体とともに考える～

はじめに、各受賞団体より受賞理由となった取り組みについて発表いただきました。続くディスカッションでは、環境配慮商品のアピールにおいて、一般消費者や企業などそれぞれの対象に向けたコミュニケーションの方法や、環境配慮サービスでのエコマーク活用などが話されました。また、環境配慮商品の開発における努力など、各社の担当者による具体的な取り組みが紹介され、非常に興味深い内容となりました。

◆受賞団体によるプレゼンテーション資料は、エコマーク事務局ウェブサイトにてご覧いただけます。

(<http://www.ecomark.jp/info/forum/2012.html>)



コーディネーターの山崎和雄氏と受賞団体パネリストの皆さん

エコマーク 2012 年度年次活動報告

プログラムの最後に、エコマーク事務局長 宇野治より 2012 年度の活動報告を行いました。

新 認定商品のご紹介

エコマーク認定のホテルが誕生

——設備面の環境対応と環境コミュニケーションの促進

近年、ホテルや旅館において環境への取り組みに力を入れる動きが広がってきています。こうした取り組みが広く社会に発信されることは、環境の側面を考慮して宿泊施設を選びたいと考える個人や企業などにとって有意義な情報源となります。

このような状況を踏まえ、ホテル・旅館等の宿泊施設における環境配慮の取り組みを促進、可視化するとともに、環境の視点からホテルや旅館を選ぶための情報を利用者に提供することを目的として、エコマークでは2012年10月に商品類型No.503「ホテル・旅館 Version1」を制定しました。

これを受け、(株)スーパーホテルのスーパーホテル Lohas JR 奈良駅が、第1号となるエコマーク認定を取得しました（認定番号12 503 001）。

■設備面の取り組みによる環境負荷の低減

(株)スーパーホテルでは、LOHAS (Lifestyles Of Health And Sustainability) の考え方にに基づきホテルの経営を進めており、「スーパーホテルの5つの約束」の1つに地球環境問題に率先して取り組むことを掲げ、2001年に本格的に環境配慮活動を開始しました。2002年からはISO14001に基づく環境マネジメントシステムの構築・運用と認証取得を進め、現在、全国の98店舗が同規格の認証を取得しています。

施設面においては、ホテル内の照明にインバーター型蛍光灯を導入するとともに、さらに消費電力が少な

く長寿命のLED照明への切り替えを進めています。空調に関しては、集中式ではなく客室ごとに調節ができる個別式エアコンを設置し、省エネの促進を図っています。また、節水型シャワーヘッドや節水コマの導入、バスタブへの満水ライン表示など、きめ細かな対応により節水を促しています。

さらに、客室に分別式のごみ箱を用意するとともに、浴室のシャンプー、リンスをディスペンサー式にし、必要な量だけ使用でき容器包装のごみが発生しないようにするなど、資源消費・ごみ発生抑制や資源循環に努めています。このほか、内装への環境配慮素材の導入を進めるなど、様々な視点から取り組みを進めています。

■利用客の理解・協力を通じた環境活動

スーパーホテルでは環境コミュニケーションにも力を入れ、利用客の理解・協力を通じて環境負荷を低減する取り組みを進めています。

ホテルの宿泊客には、チェックイン時に「エコひいき活動」への協力を呼びかけています。この活動では、連泊時の清掃不要の申出、マイ箸の持参や歯ブラシの返納などに対して地元の菓子などをプレゼントし、資源消費やごみ発生抑制に結びつけています。

また、独自の環境活動「エコ泊」を通じて、カーボンオフセットも進めています。この取り組みでは、公式ホームページから予約・宿泊した利用者を対象に、

宿泊時に発生する1室当たりのCO₂排出量4.93kgの50%分を、クリーンエネルギー事業への出資によりオフセットしています。

(株)スーパーホテルでは、設備面の環境対応や環境コミュニケーションを通じた活動に対する認知度を高め、環境に配慮したホテルの利用を促進するために、スーパーホテル Lohas JR 奈良駅においてエコマークの認定に取り組み、取得に至りました。同社では今後も環境への取り組みの充実に努めるとともに、他の店舗においてもエコマーク認定取得を進めていく考えです。

◆(株)スーパーホテルのウェブサイト

<http://www.superhotel.co.jp/>



エコマーク認定を取得した
スーパーホテル Lohas JR 奈良駅 (外観)

【上】ディスペンサー式の
シャンプー、リンス
【下】分別式ごみ箱



浄化槽のエコマーク認定商品が登場

——汚水処理の普及に貢献する高機能、低環境負荷の合併処理浄化槽

日本では下水道や浄化槽等による汚水処理施設が整備されている地域が約87%（人口比）に達していますが、整備が遅れている小規模の市町村の中には人口が分散した地域も多く、し尿と生活雑排水の両方をオンサイトで効率的に処理できる合併処理浄化槽の普及が期待されています。

こうしたことからエコマークでは、合併処理浄化槽の導入促進、し尿のみを処理する単独処理浄化槽からの転換により汚水処理の整備を促進することを目的として、2012年12月に商品類型No.151「浄化槽 Version 1」を制定しました。これを受け、大栄産業(株)の「ダイエー浄化槽FCE型」が最初のエコマーク認定を取得しました（認定番号12 151 001）。

■高い水質浄化性能、環境性能を実現

大栄産業(株)では「人と水の快適な調和」を目指し、浄化槽をはじめとする排水処理に関わるビジネスを展開するとともに、事業活動に伴う環境負荷の低減、従業員やステイクホルダーの環境意識の向上にも力を入れており、こうした活動の一環としてエコマークの認定取得に取り組みました。今回認定を取得した「ダイエー浄化槽FCE型」は、優れた水質浄化性能を有する

ことはもとより、消費電力の低減、余剰汚泥の減容化など様々な点で環境配慮がなされています。

省エネ対応においては、消費電力が少ない最新式のブロワを採用するとともに、装置稼働時に送風量が効率的に利用されるよう工夫を重ねました。また、二次処理槽の構造の工夫により、必要風量を低減でき効率良く水が流動するシステムを実現しました。

浄化槽の稼働に伴って余剰汚泥が発生しますが、本製品では、嫌気化及び汚泥の自重で圧密濃縮する方法を採用することにより効率的に汚泥を減容化し、槽内清掃時の運搬汚泥量の低減を図っています。

■製品の設置時、使用後の環境負荷も低減

「ダイエー浄化槽FCE型」は、浄化槽としての機能を維持しつつコンパクト化が図られており、製造時の資源消費の抑制とともに、製品の輸送や設置時に発生する残土の運搬に伴うエネルギー消費、CO₂発生 の抑制等の環境負荷低減効果が期待されます。

本製品（5人槽・7人槽）は業界で初めて、浄化槽の躯体にリサイクル性に優れたポリプロピレンを使用しています。これに加え、材質ごとに分離・分別が容易な製品構造にすることにより、資源循環の実効性を高めています。また、再生プラスチックを38%以上使用しており（重量比）、再生資源の活用という点でも環境に配慮した設計になっています。

大栄産業(株)では、エコマークの認定取得を踏まえ本製品の環境特性とともに、消費電力や発生残土の抑制に伴うコスト低減効果等をアピールし、導入拡大に努めていく考えです。

◆大栄産業(株)のウェブサイト

<http://www.daie-industry.co.jp/>



エコマーク認定の大栄産業(株)の「ダイエー浄化槽FCE型」

認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
152	テレビ Version 1	2013年3月12日	2020年3月31日

◆認定基準は（<http://www.ecomark.jp/nintei/>）をご覧ください。

（次ページに続く）

〈商品類型 No.152「テレビ Version1」について〉

高度なリサイクルを実現するための製品設計、軽量化の推進、統一省エネラベル★★★★★相当の優れた省エネ性能＊、利用者の視聴環境に応じて節電できる機能、および欧州の環境規制に対応した有害物質の使用削減などの厳しい要求事項や、希少金属類（レアメ

タル）やアメリカでも規制が進んでいる紛争鉱物などの観点についても考慮し、総合的に環境負荷を低減した「テレビ」を認定することを目的としています。

＊チューナーセパレートタイプは★★★★★相当以上

認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付

以下の認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付を行いました。認定基準の制定については、エコマーク事務局ウェブサイトおよび次号のエコマークニュースでお知らせいたします。

- ・新規商品類型 「乳幼児用品 Version 1」

認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定の実施について、お知らせいたします。（Version の No. は改定前のもの）

類型番号	商品類型名	改定のポイント	改定日
117	複写機 Version 2.13	・ドイツ「ブルーエンジェル」基準およびグリーン購入法との整合 ・語句等の統一 ・時限措置が終了した項目の削除 ・試験方法の追加・削除 など	2013年3月1日
122	プリンタ Version 2.10		
132	トナーカートリッジ Version 1.8		
142	インクカートリッジ Version 1.4		

◆改定点の詳細については（http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/）をご覧ください。

2013 年度以降に取り組む新規商品類型の選定結果について

2013 年度以降に取り組む新規商品類型について、昨年 10 月 1 日～31 日に新規商品類型提案の募集を行いました。寄せられた提案ならびに事務局からの提案を踏まえ、エコマーク企画戦略委員会で審議した結果、右記の 4 件について、2013 年度以降に着手する新規商品類型化の候補としてさらに継続検討することとなりました。

- 新規商品類型化の候補として継続検討とする案件（五十音順）
 - ・「再生原料を使用した化学製品」
 - ・「小規模自然エネルギー発電機」
 - ・「乳幼児用品〔適用範囲の拡大〕」
 - ・「ビルディング再利用による節電型レンタルトランクルーム、エコステーション等」

委員会報告

運営委員会（第 30 回）

第 30 回運営委員会が 2013 年 3 月 25 日に開催されました。議事内容は以下のとおりです。

1. 2012 年度（平成 24 年度）エコマーク事業報告
2. 2013 年度（平成 25 年度）エコマーク事業計画およ

び予算（案）について

3. エコマーク中期活動計画について

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/office/organization/steering_data/）をご覧ください。

基準審議委員会（第12回）

第12回基準審議委員会が2013年2月25日に開催されました。審議事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について（P.6 参照）

2. エコマーク商品類型（認定基準）の部分的な改定について（P.6 参照）

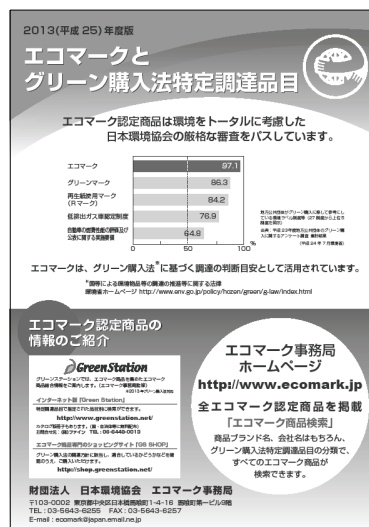
◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/）をご覧ください。

トピックス

2013年度版パンフレット、カタログのご案内

エコマークとグリーン購入法特定調達品目の対応関係をまとめたパンフレット「2013年度版エコマークとグリーン購入法特定調達品目」を作成しました。ご希望の際は普及・国際協力課までお問い合わせください。エコマーク事務局ホームページからもダウンロードいただけますので、あわせてご活用ください。（http://www.ecomark.jp/pdf/g_eco13.pdf）

また、エコマーク認定商品を掲載したグリーンステーションカタログ2013年度版が完成し、発行元の（株）ファインより地方公共団体等に配布されています。インターネット版は常時最新情報に更新されますので、そちらもご活用ください。（<http://www.greenstation.net>）



「2013年度版エコマークと
グリーン購入法特定調達品目」
パンフレット



グリーンステーションカタログ
2013年度版
お問い合わせ：（株）ファイン
（電話 06-6448-0004）

アピタ千代田橋店の環境フェアに参加しました

2013年1月19日、20日の2日間、エコマーク認定小売店舗であるアピタ千代田橋店（名古屋市）にて実施された環境フェアに参加しました。本フェアは東海三県一市グリーン購入キャンペーン期間に合わせ、グリーン購入の啓発と環境に対する関心を高めるイベントとして開催されました。

アピタ（ユニー）が実施したプログラムは、環境への取り組みを紹介するコーナーの設置や、お店探検ツアーと環境紙芝居など、小さいお子さんでも無理なく環境を意識できる楽しい内容でした。エコマークの紹

介コーナーでは、アピタ店内で販売されているエコマーク認定商品を集めて展示し、多種にわたるエコマーク認定商品をご覧いただきました。



アピタ千代田橋店での環境フェアの様子

「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加しました

2013年3月24日に開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加しました。環境活動を行っている全国各地のクラブが集うこのイベントでは、ブース出展している企業が、子どもたちに環境への取り組みを紹介します。エコマーク事務局のほかに、エコマーク契約企業では株式会社エフピコが出展しました。

「こどもエコクラブ全国フェスティバル」の様子



GEN 役員会に出席しました

2013年4月10日、11日に、世界エコラベリング・ネットワーク（Global Ecolabelling Network、以下 GEN）の役員会がドイツ・ベルリンで開催され、エコマーク事務局からは GEN の役員を務める宇野事務局長および GEN 総務事務局担当者が出席しました。

会議では、様々な国際機関との連携や GEN の PR 活動の拡充、今後の運営などについて議論が行われました。次回の役員会は、今秋の年次総会に併せ行われる予定です。

【エコマーク事務局からのお知らせ】

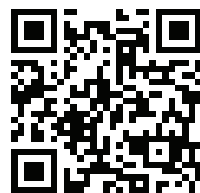
■エコマーク事務局ウェブサイトを更新しました

エコマーク事務局ウェブサイトを更新しました。トップページの URL は変わりませんが、サイト内のページが移動している場合があります。

■エコマークメールマガジン登録のご案内

エコマーク事務局では、メールマガジン「エコマーク広報」を定期的に配信しております。メールマガジンのご購読は、エコマークウェブサイトにて、または右記 QR コードにアクセスしてご登録いただけます。

※エコマークメールマガジンの配信システムを変更いたしました。セキュリティシステムの関係で、これまで受信していたメールマガジンが受信できなくなるケースがございます。ご不明な点はエコマーク事務局までお問い合わせください。



メールマガジン
登録用 QR コード

■公益財団法人への移行のお知らせ

当協会は2013年4月1日に公益財団法人に移行いたしました。移行に伴い、公益財団法人日本環境協会と改称（旧名称 財団法人日本環境協会）いたしました。今度とも皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

エコマークニュース 第89号 2013年4月20日発行

編集・発行／公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F

TEL: 基準・認証課 03-5643-6253 FAX: 03-5643-6257 (各課共通)

総務・契約監査課 03-5643-6255

普及・国際協力課 03-5643-6255

Homepage: <http://www.ecomark.jp>

E-mail: info@ecomark.jp

エコマークは（公財）日本環境協会の登録商標です。